

2026年度

1月 24日(土) 今年最初の親睦リーグ審判技術勉強会「スケジュール及びお願ひ」

2026.1月.親睦審判部長 網代

※今年最初の親睦リーグ審判技術勉強会を玉堤グランドにおいて開催します。

今回は特に審判の基本所作を中心に、審判形式は参加人数や状況により進めて行きます。内容及び時間は下記の予定通りに進行しない可能性もありますが、協力宜しくお願ひします。

※今回試合形式での実戦練習には「八幡イーグルス低学年」の選手に協力してもらいますが、今回審判技術勉強会に出席される指導者にはプレイヤーとしての協力もお願ひする可能性もあり、可能ならグローブ持参をお願いします、また帯同の選手がおりましたら、共に実戦練習に協力をお願ひ致します。

◎当日の服装等

- 動きやすい服装（あれば審判帽及び審判服）

◎持参品（用意できればで良いです）

- 親睦リーグ審判技術勉強会で使用予定の資料《親睦リーグホームページに掲載あり》
「2026年1/24審判技術勉強会案内」「審判する人の心構え」「三人制審判の動き」「四人制審判の動き」
以上を事前に内容も確認お願ひします。
- （あれば球審マスク、審判用インジケーター【カウンター】、野球ルールブック、競技者必携等）

8:45位に集合して頂き、各自にてウォームアップ等お願ひします。

- グランドづくり
- 指導側メンバーに本日の勉強会の流れを簡単に説明

9:00～9:40 ・開会挨拶（親睦リーグ会長又は副会長）と審判についての基本説明（審判部長）

《「審判をする人の心構えとして」を簡単に説明と本日の勉強会の大まかなスケジュール説明》（網代）

- 本日の勉強会の主な目的はこれから野球審判を志す方、今まで野球審判の経験が少なくもっと勉強をしたいと思っている方を中心に行います。又自分も含め、ある程度経験のある方も復習の意味でも基本から学んでいきましょう。もし勉強会途中で質問等あり、その場で即解説したほうが良いと思った場合と後でまとめて解説が良いとかは私が判断して進めていきたいと思いますので宜しく。
- 「審判をする人の心構えとして」を簡単に説明。

【球審及び墨審の基本動作説明（審判部長他）】《基本的構え方と発生練習》

「プレイ、ストライク、ボール、ヒットバイピッチ（デットボール）、アウト、セーフ、タイム、キャッチ、ノーキャッチ、フェア、ファールボール、ボーグ、インフィールドフライ、故意落球、反則打球、打撃妨害、オフザバッック、守備妨害、走塁妨害、ティクツー等」

《球審のポイント》

- プレイ、ストライク、ボール、アウト、セーフ、フェア、ファールボール、タイム、ゲーム等動作。
- 立ち位置、マスクの外し方、ストライク、ボールのコールポイント（早すぎない）。
- ストライクゾーンの説明（打者が投球をまさに打ちに行く姿勢の打者肩上部とユニフォームズボンとの中間点に引いた水平ラインを上限とし、膝頭下部のラインを下限とする本墨上の空間をいう）。
- 球審はインフィールドフライのシグナルを墨審に送る（基本球審がコールする）。
- ボーグ、妨害関係のジャッジでプレイがつづいている間はポイントだけうっておいて、一段落してからタイムのコールをかける場合もある（ボーグにかかわらずヒット又進塁している時等）。
- ハーフスイングの確認を墨審に求める場合（捕手の要求、球審の判断）は左手で『振りましたか』とゼスチャーする。墨審は速やかにスイング又はノースイングの判定をする。

《墨審のポイント》

- アウト、セーフ、フェア、ファールボール、タイム、ハーフスイングの判定等動作。
- 球審がインフィールドフライのシグナルを送ったら墨審は応える（基本球審がコールする）。
- ボーグ、妨害関係のジャッジでプレイがつづいている間はポイントだけうっておいて、一段落してからタイムのコールをかける場合もある（ボーグにかかわらずヒット又進塁している時等）。

9:40～11:30位【ノック形式での実戦練習（審判部長他）】

《審判全体のポイント》見ていかつたは絶対に無いように審判全員ゲームに集中する。

- ◎三人審判の場合、トラブルボール以外は外野へボールを追わないケースもあるが、四人審判の場合、基本的に一人の墨審がボールを追い、他の墨審が空いた墨をカバーした方が審判が動き易いと思う。
- ◎ダブルジャッジの回避として、各審判の判定責任範囲を守るようにしたいが、他の審判が責任範囲のジャッジができないと思われたら可能な限りカバーする。
 - ・基本、内野内の判定は球審が行うが、必要と思われた場合、墨審に判定を求める場合もあるので各審判員は全員プレイに集中するよう心掛ける必要がある。
(低いライナー等球審ではショートバウンド等が確認しづらい場合など)
 - ・できれば各審判がどのような動きをしているかを把握できれば自分がどのように動いたら良いのかがわかる、やむなくダブルジャッジの危険を感じたら、自分が判定するとのシグナルを送るか、相手の審判に「任せる」のシグナルを送る。

◎触墨の確認又タッグアッププレイの確認は確実に、タッグプレーの判定は近づき、フォースプレイの判定はある程度離れてジャッジ。

◎基本、球審の位置は、ランナーが本墨へ入る可能性が高い場合（二塁以降に走者がいる場合等）及び一塁墨審が本墨へ移動できないケースでは本墨でのプレイに備える。

走者なし又は一塁で左翼に打球が飛んだ場合は三塁でのプレイに備える。

走者なし又は一塁で右翼に打球が飛んだ場合は一塁触墨確認後、一塁と本墨のプレイに備える。

◎球審は、タッグアッププレイが行われる可能性があると判断した場合、基本墨審が判定する責任がある場合でも可能な限り、それに対応する行動をとる。

11:30～12:00 勉強会終了 • 本日勉強会の質問全般